

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア販売が、外出機会の増加に伴う動きがみられるほか、観光地周辺店舗が好調なことなどから、持ち直しつつある。観光は、旅行需要の高まりから、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しつつある	
観光	感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超に転じている	現状判断は、「上昇」超幅が拡大している	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を下回っている	
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、食料品が堅調に推移しているほか、外出機会の増加により衣料品などに動きがみられることなどから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗で好調なことなどから前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数は、足下では前年の半導体不足の影響により落ち込んだ反動などから、前年を上回っている。中古車販売台数は、前年を下回っている。家電販売額は、前年を上回っているものの、足下では弱さがみられる。このように個人消費は、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 7月以降、感染者急増はありながらも、行動制限のないなかで人流回復が顕著に表れており、外出機会の増加から紳士服や旅行バッグなどの売れ行きが良かった。(百貨店・スーパー)
- 食料品については、7月の感染者急増による需要のほか、中元商戦をうまく取り込めたことや台風特需などもあり、堅調に売れた。(百貨店・スーパー)
- 住宅街周辺は引き続き堅調だったほか、本島北部の観光地周辺店舗では対前年比で2倍近い売上となる店舗があるなど、国内旅行客増加の影響が顕著だった。9月は相次ぐ台風接近があり、客足が鈍った。(コンビニエンスストア)
- 感染症の自宅療養、ワクチン接種の副反応のための総合感冒薬、解熱剤の売れ行きが好調。医療衛生については、マスクは引き続き好調に推移しており、デザイン性やファッション性などを重視する動きへシフトしている。(ドラッグストア)
- 新車は半導体不足による減産で納車遅れがしばらく続くが、先行きについて、不透明感がやや緩和してきた。中古車については、新車供給不足による売り物不足が継続し、中古車市場も相場が上がっている。(自動車販売店)
- 7-9月期は猛暑の影響もあり、エアコンなどの季節商品の売れ行きは良かった。しかしながら、物価高・円安による消費マインドの低下があり、耐久消費財の売れ行きが伸びないという構図は厳しい。(家電量販店)

■ 観光 「緩やかに持ち直している」

入域観光客数は、国内客は、感染症急拡大や台風の影響がみられたものの、旅行需要の高まりから増加している。外国客は、国際線が運航再開されたことから、2年5ヶ月ぶりの入域となっている。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、緩やかに持ち直している。

- 7月以降、県内のコロナ感染者が増加したが、影響はなく、好調。(レンタカー)
- 前期4-6月期と比較すると確実に良くなっているが、コロナ感染者の急拡大により、思うように伸びなかった。8月はお盆の時期のみ好調で、前半・後半は弱かった。9月は、3週連続の台風(11号、12号、14号)による欠航の影響が大きかった。全国旅行支援開始待ちの買い控えもあったように思われる。(他運輸)
- 7-9月期の夏場は、修学旅行等の団体客がなく、個人客中心で稼働が落ちる時期であるが、今年はコロナの制限緩和により、8月以降、イベントが実施されるようになっており、貸切バスの需要が増えつつある。団体旅行の問合せも増えつつある。(陸運)
- 7月以降コロナ感染者は増加していたが、7月、8月の稼働率は9割弱と好調であった。9月は台風があったにもかかわらず、台風以外の日の稼働は約95%であった(9月の稼働率は約8割)。受け入れ側も旅行者もコロナの感染対策はしっかり行っており、需要は確実にコロナ前の水準まで回復しつつある。(宿泊)
- 7月以降、コロナ感染者の拡大の影響によりキャンセルが多く発生し、稼働は思うように上がらなかった。県内にはファミリー層を中心に観光客は来ていたようだが、シングル利用が中心の当ホテルへの利用はほとんどなく、コロナ感染拡大による出張の取りやめにより、ビジネス客も少なかった。(宿泊)
- 9月は台風11・12号の影響でキャンセルが多かったが、日程を変更してでも沖縄を観光したいという顧客に対し、9月後半の連休、または、10月の連休に振替を行うことで、台風の影響を最小限に留めた。10-12月期の予約は好調であり、第7波の収まりによる沖縄県のコロナ対処方針の緩和及び全国旅行支援の実施のため、更なる観光需要の増加が期待される。(旅行)
- インバウンドについては、10月下旬から台湾路線が戻ってくるため、需要回復が期待できる。(旅行)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、その他サービス業、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を下回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 8月の有効求人倍率（季節調整値）は1.04倍で、30ヶ月連続で全国最下位である（前月から0.03ポイント上昇）。新規求人倍率（季節調整値）は1.94倍で、前月から0.15ポイント上昇となっている。新規求人数（季節調整値）は、前月比6.6%増（724人増）となっており、行動制限がない中、夏場の観光需要の増加を背景に、特に宿泊・飲食サービス業を中心に増加している。また、土産品やコンビニの売上げが好調で、製造業の食料品製造業でも増加している。（公的機関）
- 例年であれば、夏場は求人が落ち着く時期であるが、今年の7月は観光需要の高まりからか、北部のリゾートホテルの求人や「レストラン」「イベント」などwithコロナと連動したサービス関連の求人の増加がみられた。（求人誌出版）
- 雇用調整助成金は、夏休みは好調であったため、利用額は減っている。（娯楽）
- 沖縄県全体として時給が高まっている感があり、時間給社員の確保に苦慮している。（小売）
- 10月以降は修学旅行がコロナ前の9割ほど戻る見込みであり、運転手とガイドの両方が不足見込み。（陸運）

■ 設備投資 「4年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、前年度を30.0%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸などで減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険などで増加することから、全体では前年度を31.2%上回る見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の新設などを予定しているものの、減少見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ 企業収益 「4年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、4.5%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売などで減益となるものの、運輸・郵便で黒字転化となることなどから、全体では49.3%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「現状判断は、「上昇」超幅が拡大している」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超幅が拡大している。先行きは「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家、分譲で前年を上回っているものの、貸家で前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（4年度9月累計）は、前年を下回っている。

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

- 金属製品及び化学・石油製品で上昇しているものの、食料品及び窯業・土石が低下していることなどから、生産活動は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。